

## 第 47 回国臨協関信支部学会 学会企画 『学術委員会による分科会』

昨年ルーチンアドバイザー制度を基に学術委員会が発足しました。現在、各分野のスペシャリスト達がアドバイザーとしてだけでなく、学会・研修会等の企画や運営にも携わっています。本企画はこの学術委員が中心となり、タイムリーな内容、皆様に興味を持っていただけるような内容を考案したものです。

今回は、血清部門および一般部門から「免疫検査の基礎とピットホール」「知っておきたい尿検査の進め方」と題し、検査の基本を一から学ぶ内容となっています。2018年12月に施行された「医療法等の一部を改正する法律」により、臨床への検査データの精度の確保が求められるようになりました。きちんとしたデータを出すためには確かな知識と検査技術を身に付けなければなりません。

言われたとおりになんとなくやっていること、疑問を感じたけどそのままにしていることはありませんか？新人技師だけでなく指導する立場のベテラン技師の方々にもぜひ参加していただき、普段行っている検査の再確認そしてレベルアップに役立てていただければと思います。

### 【学術委員会 血清部門】

部門長 田中 暁人 (NHO 相模原病院)

#### 「免疫検査の基礎とピットホール」

今年度の関信支部学会の分科会は、『免疫検査の基礎とピットホール』と題して、開催いたします。完全自動化された免疫測定装置は、大きく大別して3種類(CLEIA、CLIA、ECLIA)の測定方法があります。各メーカーが精度はもちろんのこと、短時間で測定結果が得られるようになり、メーカーごとに特徴的な測定項目を開発し臨床に大きく貢献しています。しかし、誰でも簡単に精度の高い測定結果を出すことができる反面、抗原抗体反応の原理と、測定方法が異なる免疫測定装置の特徴を理解した上で、データの解釈をする必要があります。また、近年、抗体作製技術や測定技術の進歩により、検出感度と特異性が飛躍的に向上しましたが、非特異的の反応を生みデータの解釈をさらに困難にしています。

今回の分科会では、まず免疫検査の基礎として、各メーカーの代表的な装置の測定方法の原理や違いについて解説いたします。また、免疫検査のピットホールとして、非特異反応をはじめとした異常反応などの原因や対処法について解説いたします。

本分科会が、ルーチンで免疫検査を担当する技師だけでなく、新人技師や日当直のみで免疫検査を担当される方の一助となれば幸いです。

### 【学術委員会 一般部門】

部門長 田原 彩華 (NHO 千葉東病院)

#### 「知っておきたい尿検査の進め方」

一般部門で実施する検査には自動化されていないものが多く、日当直時に実施する一般検査は少々厄介で、技師間差の生じる検査が多い印象があります。なかでも、尿沈渣検査は技師間差の生じやすい検査ではないでしょうか。

尿沈渣検査は、細胞を正しく分類、そしてその数を報告することが必要です。しかし、生標本を観察しているため、保存しておくことは難しく、同じ標本を作製することもできません。また、すべての技師が同じように細胞を分類できることが理想ですが、1日に数百件の沈渣をみる技師の目と、月に数件しかみる機会のない技師の目には明らかな差があり、技師間差の要因となります。初検値の場合や、前回値と明らかに差がある場合、明らかな異常値が出た場合、分類に迷う細胞が出現した場合など、結果に不安を感じることもあるかもしれません。

そこで一般部門で担当させていただく分科会では、普段私たちが尿沈渣を鏡検する際の検査の進め方(尿沈渣以外に確認している検査データ)などを少し紹介させていただければと考えております。本分科会で皆様の不安を少しでも解消するお手伝いができるよう、症例をいくつか提示させていただく予定です。